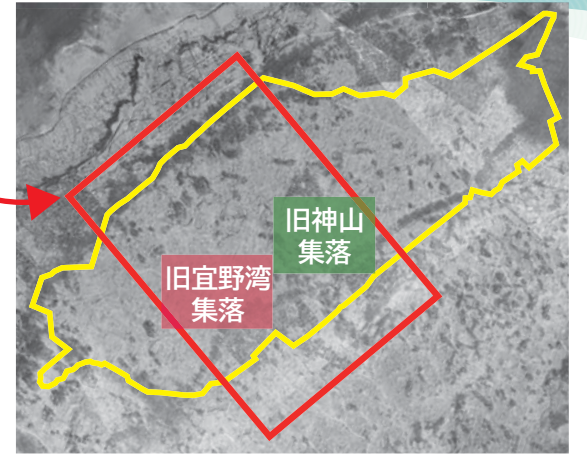


歴史文化資源（戦前の集落）

地形と緑を活かした集落

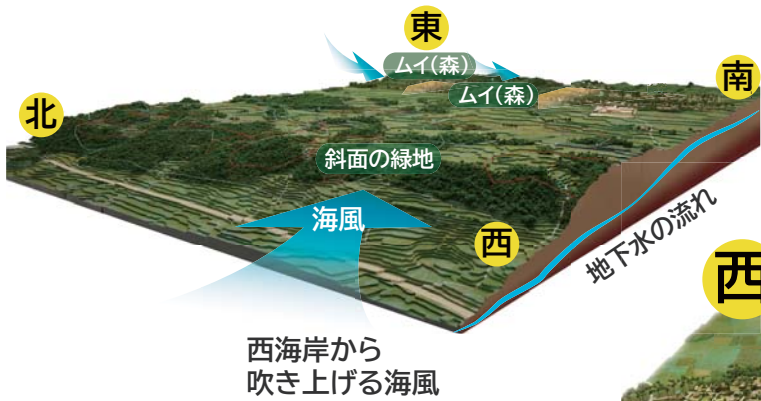
普天間飛行場となる前のかつての集落の模型（原風景模型）を製作することで、傾斜や風の通り道を活かした家々、集落の要所にある湧水、人々が集まる市場や祭の広場など、先人たちの暮らしを理解し、新しいまちに活かすための土地利用に関する知恵や空間構成等を明らかにしました。

このあたりを
模型にしました！



西側斜面の緑地

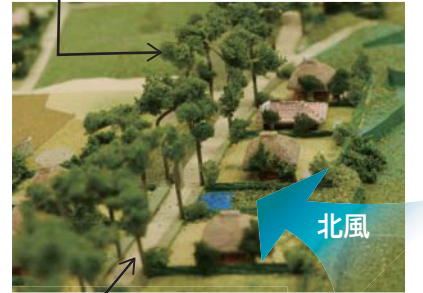
西側の斜面にある緑地は、西海岸から強くふき上げる海風を和らげています。



並松街道

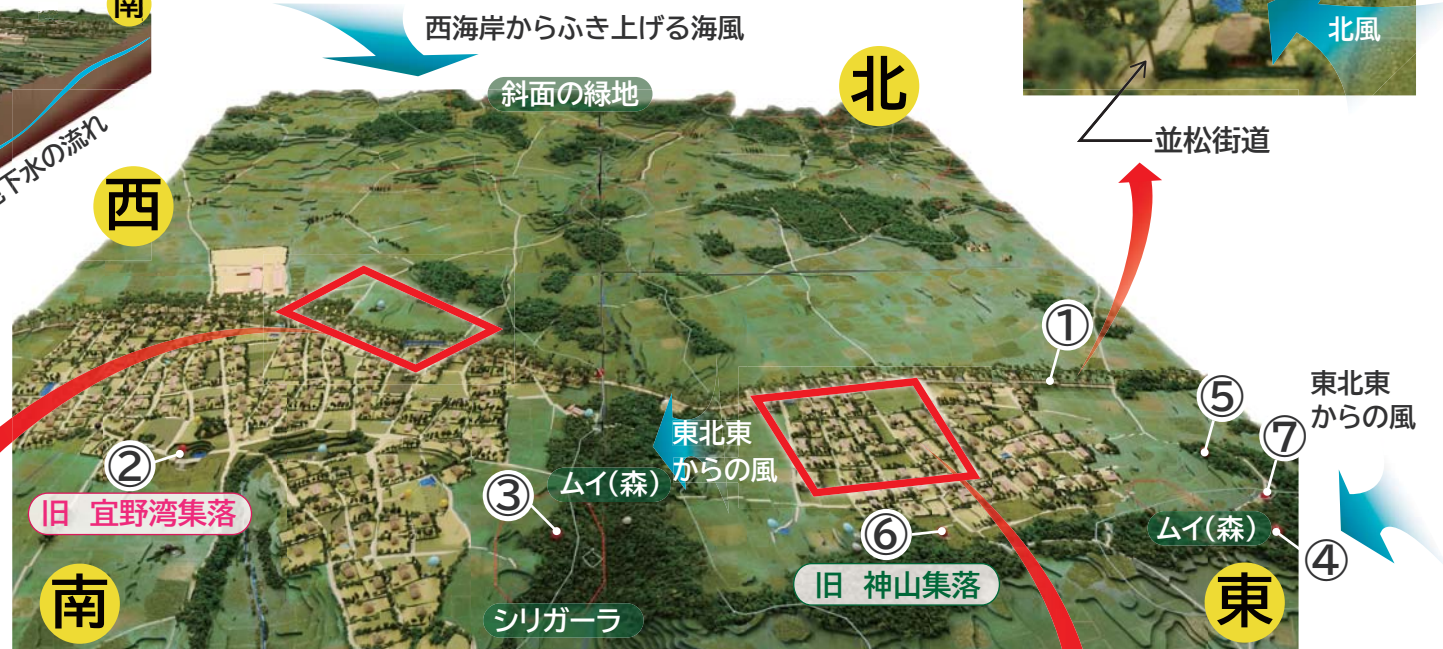
並松街道は、普天満宮へお参りに行く道の景色づくりだけでなく、北風を和らげる効果を上げるために琉球松が植えられたと考えられます。

琉球松



農地を風から守る緑地

まとまった緑地やついでたのように木が植えられたところは、農地を北風から守るためと考えられます。



ムイ(森)とシリガーラの斜面にある緑地は、東北東からふく風から、それぞれの集落を守っていました。

家の向きと屋敷林

集落の屋敷は、そのほとんどが南側から入るつくりでした。北側には屋敷林があり、冬は冷たく強い北風をさえぎり、夏は涼しい南風を取りこんでいました。屋敷林以外にも、石がきの屋敷囲いや、土塀の上に屋敷林を植えていた家も多くありました。



【旧宜野湾集落と旧神山集落の歴史・文化資源】

①宜野湾並松街道

琉球王国時代、首里から普天満宮までの参詣道だったところです。

約3,000本の琉球松が植えられ、国指定天然記念物に指定されていました。現在は残っていません。



②宜野湾メヌカー古湧泉

飲料水・浴水・洗濯用水の3つの水槽に流れ込み、村人たちの生活には欠かせない場所でした。



③宜野湾クシヌウタキ遺跡

ウタキ(御嶽)は祖先をまつる祭祀をするところです。石の祠や海砂利敷などから村落祭祀やその移り変わりを見てとれます。



④神山テラガマ洞穴遺跡

この横穴洞穴は拝所で、普天満宮の祭神である女神伝承を伝えるなど、字神山の聖地として現在でも信仰の対象です。



⑤神山トゥン遺跡

集落の先祖を祭る石の祠が保存状態良く残っており、当時の祭祀を知ることができる重要な遺跡です。



⑥神山クシヌカー古湧泉

生活用水だけでなく、新年の若水、子どもの産湯、死者の浴水、はしかの治療にも使われました。



⑦神山後原ウシナー跡(闘牛場)

沖縄の伝統的な娯楽文化である闘牛。1911(明治44)年頃まで利用されていました。現在、県内で唯一残っている闘牛場です。

